

がん検診受診率向上調査事業 報告 1

秋田県における胃がん検診受診状況と住民が希望する検診体制

～質問紙調査から～

佐藤智子 張 勇 高山裕子 田中貴子 高階光栄 高橋伸一*¹

がん検診受診率向上を図ることを目的とした、検診を受けやすい環境作りの基礎資料にするため、県内3地区の住民を対象に質問紙調査を行った。その結果、対象者の63.8%が胃がん検診を毎年または隔年で受診していた。検診未受診群は、受診群より休日を希望する割合が高く、検診の時間帯は朝の比較的遅い時間帯を希望する傾向にあった。また、職場で受診できる環境にある場合では検診の受診率が高かったことから、職場が受診費用を補助することや、時間帯を気にせずに受診できる環境の整備をすることが、受診率を向上させるために必要と考えられた。

1. はじめに

秋田県は、がんによる死亡率が全国的にも高く、さらなるがん対策の推進が必要である。なかでも、がん検診は早期発見、早期治療により、死亡率の減少に結びつくため、受診率向上対策が急務となっている。平成19年に施行されたがん対策基本法に基づき策定されたがん対策推進基本計画¹⁾においては、5年以内に達成すべきがん検診受診率の目標が掲げられており、今後一層の推進を図る必要がある。そこで、がん検診受診率向上のための基礎資料とするため、県内3地区の住民を対象に質問紙調査を行った。今回は、本県において特に死亡率の高い胃がん検診の受診状況と、住民が希望する検診体制などの結果について報告する。

2. 調査及び方法

2.1 調査対象及び期間

秋田県内3地区に在住する40～59歳までの男女1,600人を対象とし、平成19年8月に実施した。

2.2 調査方法

郵送による自記式の質問紙調査を行った。

2.3 調査項目

2.3.1 対象者の属性

性別、年齢、勤めている仕事の種類とその従業員数を調査項目とした。

2.3.2 胃がん検診について

胃がん検診受診の有無、検診に対する考え、受診しなかった理由を調査項目とした。

2.3.3 がん検診の体制について

希望する受診料、検診会場までの交通手段、希望する検診の時間帯を調査項目とした。

2.4 集計方法

集計解析にはSPSS.Ver.13を用いた。

3. 結果及び考察

3.1 対象者の属性

回収率は3地区あわせて40.6%（回答数650/1600）であった。無記入が半数以上であった回答を除き、有効回答640（有効回答率40.0%）を用いて集計を行った。

性別は男性42.3%、女性53.9%で、年齢区分別では40歳代が48.4%、50歳代が46.6%であった。

回答者の仕事については勤め（常勤）が58.8%、パート・アルバイトが15.5%、勤めていない（専業主婦も含める）が14.5%、自営業・農業が9.1%であった。勤めとパート・アルバイトのうち職場の従業員数が1～49人は58.5%、50人以上は39.8%であった（表1）。

3.2 胃がん検診について

胃がん検診の受診頻度について図1に示した。胃がん検診を毎年受診しているのは42.3%、隔年

*¹: 健康福祉部健康推進課

表1 対象者の属性

項目		n	%
性別	男性	271	42.3
	女性	345	53.9
	無回答	24	3.8
年代	40歳代	310	48.4
	50歳代	298	46.6
	無回答	32	5.0
仕事	勤め	376	58.8
	パート・アルバイト	99	15.5
	勤めていない(専業主婦を含む)	93	14.5
	自営業・農業	58	9.1
	無回答	14	2.1
勤め・パート・アルバイト先の従業員数	1-49人	278	58.5
	50人以上	189	39.8
	無回答	8	1.7

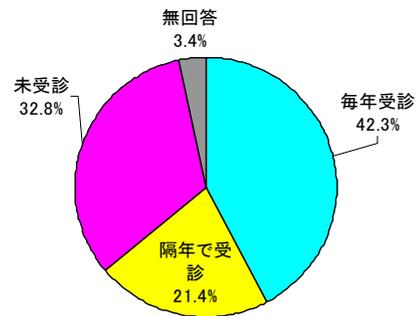


図1 胃がん検診受診頻度

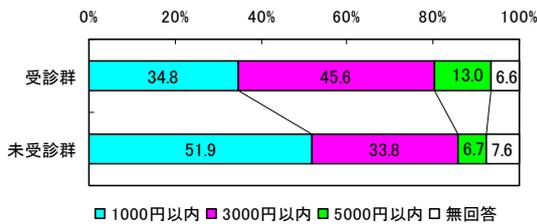


図2 希望する検診料

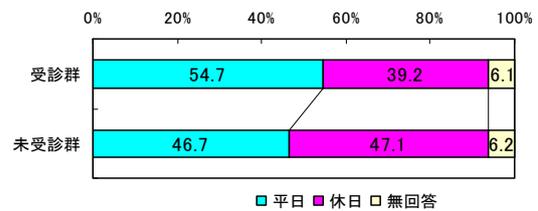


図3 平日と休日の希望

で受診しているのは21.4%で、あわせて63.8%であった。一方、未受診者は32.8%であった。

3.3 がん検診の体制について

毎年及び隔年で受診している人を受診群、未受診者を未受診群に分け、検診を受けない理由や希望する検診体制について割合を比較した。

希望する検診の料金について、受診群では1000円以内の割合が34.8%、未受診群では51.9%であり、未受診群において低料金を希望する割合が高かった(図2)。自由記載の回答からも受診率を向上させるためには料金を安く、さらには無料にするべきとの回答も多く寄せられた。

希望する曜日や時間帯については、受診群において休日を希望するが39.2%、未受診群において47.1%であり、未受診群で休日を望む割合が高かった(図3)。時間帯については、受診群において6時～7時30分が22.5%、7時30分～9時が24.6%、9時～10時30分が26.2%であったのに対して、未受診群において9時～10時30分が26.2%で、

朝の比較的遅い時間帯を希望する割合が他の時間帯と比べて高い結果であった(図4)。交通の便については、未受診群の55.2%が検診会場までの移動手段が便利になっても検診を受診しないと回答していた(図5)。

未受診群において、受診しない理由とその割合は図6のとおりである。受ける暇がなかったからが24.3%と最も高く、毎年は受けていないからが18.6%、悪いと言われるのが怖いからが8.1%の順であった。

3.4 職場での検診体制について

職場での胃がん検診受診状況を表2に示した。雇用形態や職場の環境などにより受診割合を比較してみると、勤め(常勤)では受診割合が71.0%であったのに対して、パート・アルバイトでは56.7%であった。さらに職場で胃がん検診受診可能な人では、受診割合が87.9%に対し、職場で実施していないことから受診できない人においては46.5%であった。

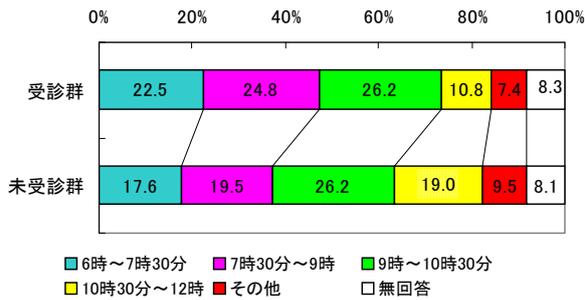


図4 検診を受診するのに都合の良い時間帯

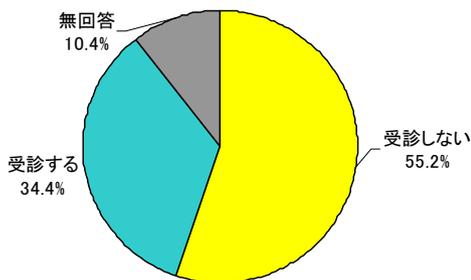


図5 移動手段が便利になれば検診を受診するか

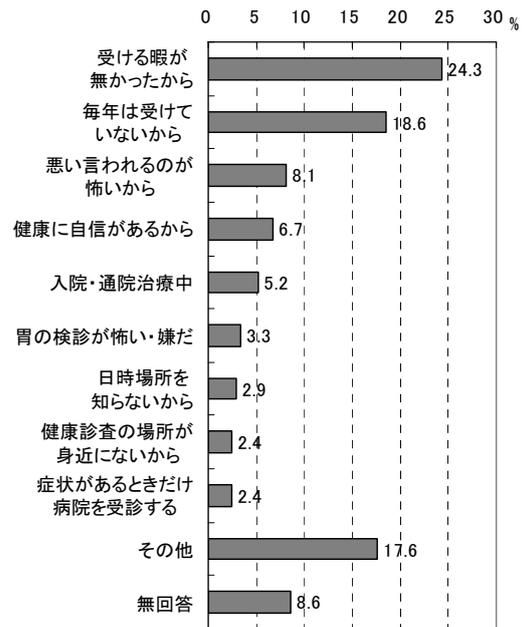


図6 未受診群における受けない理由

4. 考察

平成20年に策定された秋田県がん対策推進基本計画²⁾において、個別目標として各がん検診受診率を50%以上にすることが明記されている。秋田県においては、市町村が実施した検診受診率をみると、胃がんが21.2%、大腸がんが30.3%³⁾と目標値には達しておらず、死亡率抑制のためにもさらなる検診率向上を図る必要がある。今回の質問紙調査を通じて、仕事の種類や性別によって検診を受けるのに都合の良い曜日や時間帯は異なるが、勤めやパート・アルバイトでは職場の状況により平日に検診の時間を割くことが難しいことが考えられる。時間帯については、特に女性の場合、早朝に夫や子どもを送り出さなければならず、その時間に検診を受けることが難しいことが考えられる。自由回答にも、検診の時間帯や時期に幅を持たせてほしいとの意見が多く寄せられていた。さらに、職場での受診料の補助や時間帯を気にせず検診を受けることが出来る環境の整備が、受診率向上に結びつくと思われた。また、今後は市町村、人間ドックおよび職域などでの全体的な検診の状況を把握し、それぞれの検診体制にあった対策を考えていく必要があると思われた。

表2 職場での胃がん検診受診状況

項目		受診 %	未受診 %
性別	男性 n=266	68.8	31.2
	女性 n=334	63.8	36.2
雇用形態	勤め(常勤) n=372	71.0	29.0
	パート n=97	56.7	43.3
胃がん検診の実施	勤務先で実施している n=221	87.9	12.1
	実施していない n=200	46.5	53.5

なお、本調査は平成19年度秋田県がん検診受診率向上調査事業のがん検診受診率向上に関する調査（質問紙調査及びフォーカスグループインタビュー調査）の一環として行われた。

参考文献

- 1) 厚生労働省 がん対策推進基本計画平成19年6月
- 2) 秋田県がん対策推進基本計画平成20年4月
- 3) 厚生労働省 地域保健・老人保健事業報告書平成17年